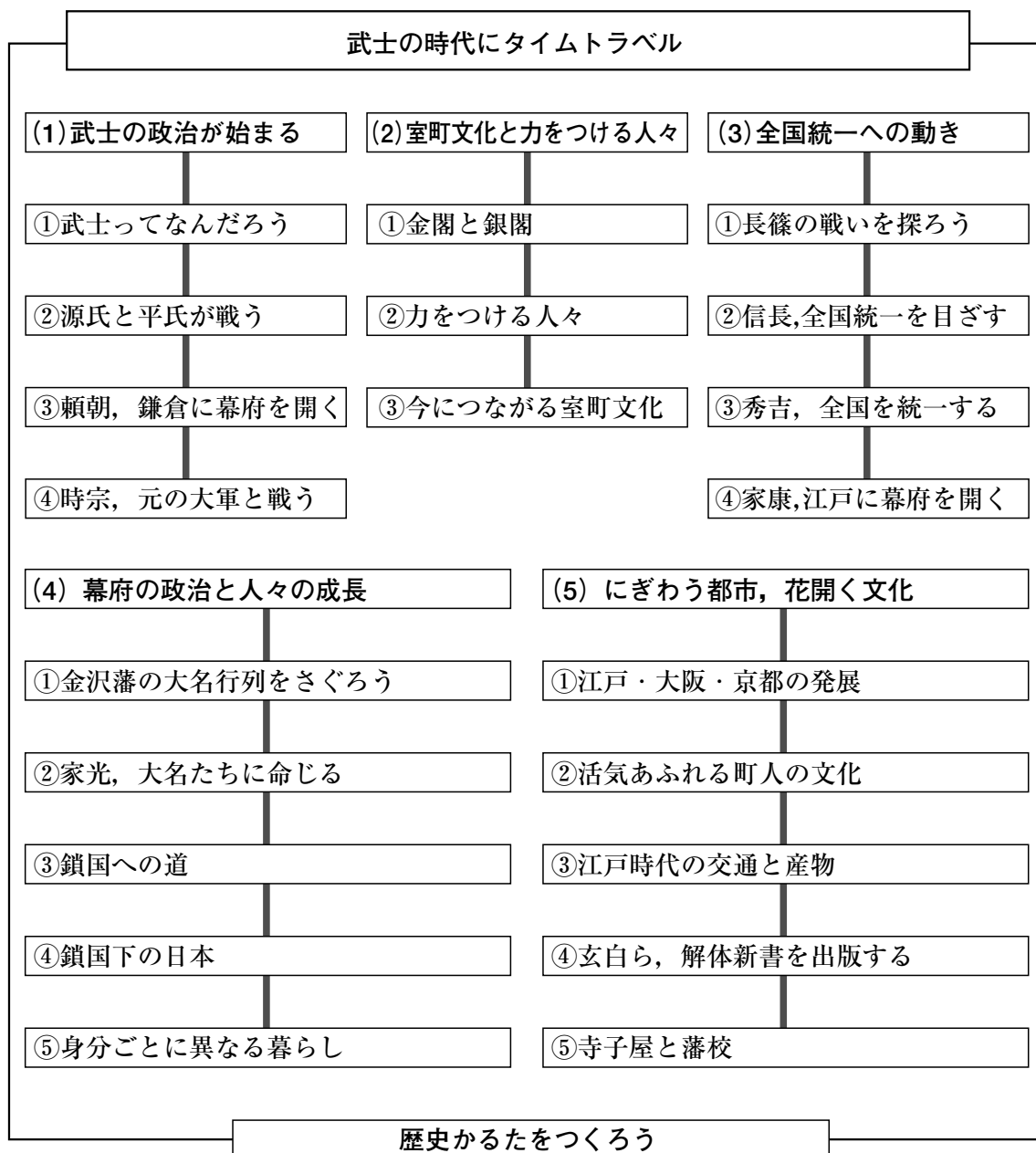


1.単元の目標と単元構成

目 標	・ 武士による政治と村や町の人々の暮らしと世の中の変化について意欲的に調べることができるようにする。 ・ 鎌倉幕府の成立や戦国の世の統一と江戸幕府の政治について調べ、武士による政治がどのように行われていたか考えることができるようにする。 ・ 地域の歴史的人物や文化遺産などを資料を活用して調べ、工夫して表現することができるようにする。 ・ 武士による政治や文化の移り変わりや村や町の人々の暮らしについて理解させる。
--------	--



2. 指導計画作成上の工夫と留意点

(1) 大単元の特性

武士の時代は、子どもたちに歴史を学ぶ楽しさを存分に感じさせてくれる。様々な歴史的事実やエピソードに満ちあふれているからだ。

しかし、鎌倉幕府が開かれてから明治政府が始動するまで676年間もの間を単純にひとくくりにして論じることはいできない。

教科書では、はじめに源平の合戦から武家政権の成立と鎌倉幕府の政治を扱う。子どもたちは、武士の時代の幕開けと、武家の文化の萌芽について学習する。武士団が、「ご恩と奉公」という中世的な論理で結束していったことや、頼朝が京から離れた鎌倉で政治の実権を握っていたことも考えさせたい。また、鎌倉・室町期は、新たな武家の文化が花開いた時代でもある。

地方では、在地の武士が力を蓄える一方で、庶民が農業や手工業を発展させ、貴族や武士とは異なる芸能や祭を生み出していた時代でもある。

そして戦国期は信長・秀吉・家康の三武将を取り上げ、幕藩体制の成立へとつなげていく。

子どもたちは時代ごとに異なった姿を表す武士や民衆の姿について学んでいくことで、日本人が培ってきた文化や伝統にもふれることになる。

(2) 学びのてびきの活用で“考える学習”を

教科書では想像図を用いて在地の「武士の館」を紙面に再現していることが多い。また、「長篠合戦図屏風」や「参勤交代」の絵画資料など、子どもたちの気づきから疑問や学習問題に発展させられる要素を多く含んだ定番的な資料も適宜配置されている。

さらに、子どもたちが、どのように資料を読み取ったらよいのか、どのように考え学習問題を作ったらよいのかを「学びのてびき」としてガイダンスし、子どもたちに思考の道筋を整理して示しているのが、積極的に活用したい。

(3) 江戸時代の町人の暮らしと文化

学習指導要領では、「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること」

として、新たに江戸時代の文化を別項を立てて取り上げている。

江戸時代は町人の時代であると言っても過言ではない。江戸・大阪・京都など大都市で商人が経済的に力をつけていったことを背景に町人文化が花開いたのである。町人に光をあてることで、生き生きとした江戸時代の人々の姿が浮き彫りになってくる。

都市から生まれた歌舞伎や浮世絵、人形浄瑠璃、俳諧などの文化は全国各地に伝播していった。都市に住む人々を寺社詣でなどの旅に駆り立てたり歌舞伎や俳諧が地方へ広がって行ったりしたことは、交通網の整備と流通業の発展に負うところが大きい。

五街道の他に、各地に脇往還が整備され人の動きがいっそう活発になった。脇往還にも、人馬の引き継ぎを行った「駅」の跡や随所に道標、馬頭観音、道祖神等が残されていて、往時を偲ぶ事ができる。

また、北上川、利根川、相模川、矢作川、大和川、四万十川など数多くの川で上流域と下流域の物資の運搬に川舟が用いられた。流域の博物館や資料館に関連する展示資料の有無を確認して積極的に利用したい。

(4) 地域に伝わる江戸文化を探る

江戸時代に発達した歌舞伎、人形浄瑠璃、俳諧などの文化は、人やものの動きにのって、日本各地に広がっていった。江戸時代創建の芝居小屋としては香川県の金丸座が有名。また、社寺での奉納興行や農民が演じる農村歌舞伎も全国的に盛んになったことから、各地の農村芝居を地域学習の素材として取り上げるのもおもしろい。

人形浄瑠璃では、阿波の淡路座をはじめとして、全国各地で人形芝居が上演されるようになった。その多くが農村人形芝居で、寺社への奉納芝居として地元の農民が人形を操り、義太夫を吟じるというものだ。現在でも各地の保存会を中心に活動を行っているのが、注目したい。

俳諧（俳句）についても、全国各地に俳句をたしなむ富裕層が現れ、江戸から俳句の宗匠を招いて句会を行うようになった。

3. 展開例

第5中単元 にぎわう都市、花開く文化【6時間】

小単元の目標 ・江戸・大阪・京都など大都市の町人によって新しい民衆文化と新しい学問がさかんになったことを調べ、町人の力強い文化について理解させる。

・全国各地の生産力の向上と消費都市への物流の発達が江戸時代の経済の発展を支えると同時に文化や学問を地方に伝播させていったことをとらえさせる。

過程	ねらい	主な学習活動と内容	□留意点 ●学習資料 く 〉評価
つかむ	◆江戸や大阪、京都などの大都市の繁栄の様子と、町人が力をつけ産業や文化を発展させていったことをとらえることができるようにする。(1)	①絵画資料から、大都市のにぎわう様子をとらえるとともに水運の発達を読み取る。 ・日本橋の通りは人でにぎわっている。 ・たくさんの船が大阪に集まっているのはなぜだろう。 ・蔵が多いことと関係がありそうだ。 ②江戸・大阪・京都の人口とロンドン、パリの人口と比較して、世界的な大都市であったことをつかむ。 ・江戸の人口は当時世界一多かった。 ③江戸を起点に各地に陸路の整備がなされたことをつかむ。	●絵画資料「活気あふれる江戸のまち」「大阪の港のにぎわい」 □二つの絵図のどちらにもたくさんの人が描かれていることから、世の中が活気にあふれてきたことをつかませたい。 く 絵画資料から気づいたことや疑問に感じたことを表現している。〉【思・判・表】 ●江戸時代中ごろの人口 ●五街道や宿場の資料
人々が活気にあふれる大都市からどのような文化や学問が生まれたのだろう。			
調べる	◆歌舞伎や浮世絵などの新しい文化について、調べる計画を立て、興味のあることについて調べる。(1)	①絵画資料を見て気づいたことを発表する。 ・芝居小屋の外もたくさんの人がつめかけている。 ・芝居小屋は大勢入れる。 ・歌舞伎は今でも人気がある。 ②ゴッホの模写について調べ、浮世絵が世界的に評価の高い芸術品であることを理解する ・浮世絵は版画だから数多く刷られ、人々が買い求めた。 ・人形浄瑠璃も現代まで続いている文化。 ・俳句も江戸時代の新しい文化で、松尾芭蕉をはじめ多くの俳人が出た。 ③庶民の間にこのような文化が栄えたわけを考える。 ・大都市に商工業が発展し、町人が経済的に豊かになった。 ・戦いのない平和な時代が続いて暮らしにゆとりができた。	●絵画資料「歌舞伎の芝居小屋につめかける人々」「歌舞伎を楽しむ人々」 □芝居小屋の絵図をもとに、庶民の間にも娯楽の場が登場し、都市の人々の生活の中に文化が栄えたことに気づかせたい。 く 新しい文化は多くの人々が楽しむことのできる町人の文化であることをとらえている。〉 【知・理】 ●広重の浮世絵、ゴッホの模写 ●江戸時代の行事や文化の資料 □巻末年表から戦乱のない時代が続いたことを確認させたい。 く 町人が力をつけていく中で新しい文化が生まれたことをとらえている。〉【知・理】
	◆交通の発達によって地方の産業や人々の生活が変化してきたことをつかむ。(1)	①陸運・海運が発達したことを調べる。 ・五街道が整備された。 ・日本海沿岸、太平洋沿岸の両方に航路ができた。	□街道や航路だけでなく、各地の産物にも注目させたい。 く 輸送手段が発達したことで人やものの動きがさかんになったことをとらえている。〉【知・理】

◆蘭学，国学などの新しい学問が世の中に与えた影響を理解することができる。
(1)

②各地の産物が江戸や大阪，京都などの大都市に運ばれた以外に，多くの人が信仰や娯楽の旅に出かけたことを調べる。
・伊勢参り，大山参り，富士講，金比羅参りなど庶民の間で寺社参詣の旅が盛んだった。
・飛脚，川越え人足，牛方，馬方など運輸流通の専門職が登場した。

①中国の医学書と解体新書を比べ，そのちがいについて調べる。
・解体新書の方が正確に描かれている。
・玄白たちは解剖を見て，オランダの医学書が正確だという事におどろいた。
②本居宣長が日本の古典を研究し，「国学」を発展させたことをつかむ。
・仏教や儒教が伝わる以前の日本を研究した。
・国学の登場から尊皇攘夷の考えが生まれた。

●復元模型写真「北前船」
●絵画資料「旅を楽しむ人々」
□身近な街道や脇往還などを想起させる。
〈大都市と地方の間で人やものがさかんに動いたことで人々の暮らしが変化したことをとらえている。〉【知・理】

●人体図（中国の医学書・解体新書）
●想像図「解剖の見学」
□当時の日本では，解剖という概念がなかったことを知らせる。
□蘭学が実際の暮らしに影響を与える学問であるのに対し，国学は明治維新につながる精神的な学問であることを知らせる。

新しい学問の広がりとは，人々にどのような影響を与えたのだろうか。

◆江戸時代には，武士だけではなく町人の子弟にも教育が行われていたことをつかむ。(1)

①全国の代表的な藩校と私塾の分布図を見て，国学や蘭学などの学問の広がりを調べる。
・私塾の指導者について
・藩校…親藩，譜代，外様いずれか

□どうして学問が重視されたのか，武士の立場，町人の立場で考えさせたい。
〈身分をこえて多くの人々が学問を志した理由を考え，表現している。〉【思・判・表】

◆武士の世の中の人物やできごとの特徴を短い言葉で表現し，歴史かるたをつくることができる。
(1)

①取り上げてみたい人物やできごとを選ぶ。
②読み札の形式を決める。
・五七五調，短歌調，自由な形など
③人物の業績やできごとの特徴を短い言葉で書いてみる。
・連想したことをウェビングで表してみる。
④言葉を入れ替えたり文章を工夫する。
・倒置法を用いる。主語をかえてみる。
⑤読み札に合う絵札をつくる
⑥作品を発表し合い，相互評価する。

□つくった歴史かるたの文章は声に出して読んで，さらに吟味するように指導したい。
〈武士の世の中の特徴について，適切な言葉を選んで表現している。〉【思・判・表】